



5	2017	9	16～ 17	営業所内にある整備場内において、バーナーで空き缶のフタの部分を切断していたところ、空き缶内に残っていたと思われる可燃性ガスにバーナーの火が引火してしまい、吹き出した炎により右手首を火傷した。	50	11	40301	30～ 49
6	2017	9	10～ 11	食堂内にある厨房で、洗浄機のお湯をわかすためのガスの元栓を開く作業をしているときに、着火がうまくいかず何度か着火を行ったところ、ガスが室内にたまっていて、爆発をした。社員は首と左手首、左腕、左前腕、右手首、右手の指先にやけどを負った。	37	14	140201	30～ 49
7	2017	5	14～ 15	修理工場内にて、パーツクリーナーを使いしゃがんで部品を洗浄中、近くで溶接作業をしていた火の粉が飛び落ち、パーツクリーナーから排出されて、下に溜まっていたLPガス成分が入っているパーツクリーナーに引火し、ビニール製のジャンパーを着ていたため衣服に火がつき、体に火傷を負った。	41	11	11709	10～ 29
8	2017	4	14～ 15	車検整備完了後、リフトを降ろし助手席側よりE/Gオイル補充後にこぼれたオイルをパーツクリーナーにて洗浄していた。そのとき車両右側にてリフトアタッチメント格納部のフタの剥がれに気付いたメカニックがフタの修復の為に溶接作業を行う。フタヒンジ部3ヶ所目を溶接していた時にボンという音とともにパーツクリーナーに引火したと思われる。	37	14	11701	30～ 49
9	2017	4	11～ 12	新造船建造中船内（機関場）にて作業中、増速機上のスプレー缶2本とウエスが入っているダンボールのウエスに火がつき、加熱されたスプレー缶1本が爆発した（爆発音は機関場のみ）。近くで作業していたので、燃えているウエスの火を消すため防熱シートをかけたが、もう1本のスプレー缶も可燃されて爆発し負傷した。	69	14	11501	1～9
				当社移転に伴い上長が各人の所有物の整理を指示していたところ、休日に自己ロッカー整理のため出社した。ロッカー				

10	2017	3	9~10	<p>に入っていた電子部品等の冷却スプレーを廃棄しようとして3/4程度残っていたガスをその場で噴霧させた。その際、換気はしていなかった。噴霧後ロッカーを出ようと扉に触れた際に静電気が発生し、ロッカー室内に溜まっていたガスに引火し、瞬間的に炎があがり、両手の甲と顔面に火傷を負った。</p>	37	11	11409	300~ 499
11	2017	3	9~10	<p>児童クラブ整備工事現場に於いて、床・コルクタイル貼工事と外部枠固定溶接作業をしていた。内装床接着剤を塗布し、別の部屋を段取りしていた時にその部屋の扉を閉めて、溶接作業をしていた溶接の火の粉が、扉の隙間から気化したガスに引火し内部が火災となり、消火活動のため被災者が室内に入った際に顔と手を火傷した。</p>	64	11	30202	10~ 29
12	2017	2	8~9	<p>リフトの燃料（LPガス）を交換中LPガスのコックを閉めたつもりが、閉まっておらず、バルブを開けてしまった為、LPガスが噴出して慌てて手でコックを閉めてしまった為、手を凍傷してしまった。</p>	52	11	11509	30~ 49
13	2017	1	20~ 21	<p>店舗内3階キッチン内で、オーブンに着火しようとした際、オーブン内にガスが充満していた様で、引火しガス爆発が発生し、顔面全体に火がかかり、髪の毛が焦げ、顔面全体を火傷した。</p>	20	11	140201	10~ 29
14	2017	1	9~ 10	<p>当社の倉庫で、ガスバーナーの点検の為、ガスボンベとホースとガスバーナーをセットして作業していた。ガスが点火しないので確認をしていたとき、溜まっていたガスに火がつき、左太ももを火傷を負った。</p>	45	11	30209	50~ 99
15	2016	12	15~ 16	<p>厨房内フライヤー付近で、改装オープン準備の為、フライヤーに点火したところ、点火時のガスの臭いとフライヤーの洗浄を行った時の洗剤の異臭を感じ、めまい、手足の痺れを発症。</p>	31	12	140201	50~ 99

16	2016	11	13～ 14	ガス管入替工事の為の掘削箇所で、廃止したガス管内に残っているガスを、燃焼させて処分をする作業中、ガス管の端に取り付ける専用部材を1つ準備し忘れた為、他の部材を代用していたところ、作業途中でその箇所からガスが漏れ、燃焼作業中の火により引火し、火傷を負った。	61	11	30309	10～ 29
17	2016	11	7～8	被災者はアルミナ溶融炉のスタート準備として点火作業を開始。排気ブロアー、循環ポンプ起動、冷却水通水を順次行い、酸素とLPG元バルブをそれぞれ開とした。手元バルブにて一次酸素量を所定量に設定した後、着火棒を点検口から炉に挿入した際、バックファイヤーを起こし、その際、顔面を被災した。	59	16	10801	50～ 99
18	2016	11	18～ 19	店内キッチンで、餃子を焼こうとしたときに、火がつかないので、確認をしながら点火しようとしたときに、漏れたガスに引火し、炎を浴び、両手、腕、顔を火傷した。	66	11	140201	10～ 29
19	2016	11	14～ 15	道路に埋設されたガス管を新しいガス管に取り替える工事において、道路を重機で掘削中にガス管を破損させてしまい、被災者がガスの遮断作業を実施していたときに、ガスに着火してしまい、右手甲と左右頬を火傷した。	56	16	30199	10～ 29
20	2016	11	11～ 12	道路照明の不点修理をする為に照明施設のあるマンホール蓋の氷を同僚がガスバーナーで融解しているのを見ていたところ、マンホール内に充満していたガスに引火して爆発し、その際に蓋が跳ね上がり、頭部に当たり負傷した。	25	14	30301	10～ 29
21	2016	11	11～ 12	道路照明の不点修理をする為に照明施設のあるマンホール蓋の氷をガスバーナーで融解していたところ、マンホール内に充満していたガスに引火して爆発し、その際に蓋が跳ね上がって顔に当たり負傷した。	43	14	30301	10～ 29
				危険物倉庫内の片付けをしていた際、水につけていたペンキ塗り用ローラーの廃液を処理しようとして、危険物倉庫横の				

22	2016	9	12～ 13	<p>廃液仮置場に行き、空になっている一斗缶に洗浄後の廃液水を移そうと思い、缶の蓋をライターでこじ開けようとした際に爆発し、出火した。その火が被災者の服に燃え移り、火傷を負った。</p>	23	11	11502	300～ 499
23	2016	9	9～ 10	<p>饅頭を蒸す為に、ガスの元栓を開け蒸し器の種火を付けようとチャッカマンに点火して種火の所に近づけようとしたところ、ガスのコックが開いていて、ボンといって火がつき、そのときに火傷した。</p>	34	11	140201	1～9
24	2016	9	10～ 11	<p>開店の準備の為、冷麺のお湯を温めるため、ガスのコックを開きチャッカマンで着火しようとしたところ、チャッカマンを床に落とし、急いで拾って着火したら、左手を火傷した。</p>	40	11	140201	10～ 29
25	2016	9	10～ 11	<p>開店の準備の為、冷麺のお湯を温めるため、ガスのコックを開きチャッカマンで着火しようとしたところ、チャッカマンを床に落としてしまい、急いで拾って着火したらガスがかなり出ていたらしく、左手を火傷した。</p>	65	11	140201	10～ 29
26	2016	9	8～9	<p>デリカ作業場において、ガスオーブンでハンバーグを調理中、途中で焼き加減を確認したところ、ガスバーナーに点火されていなかったため、再度点火したら、オーブン内に充満していたガスが一気に外に漏れて引火し、その炎を上半身に浴びてやけどを負った。</p>	59	11	80209	30～ 49
27	2016	7	10～ 11	<p>園の広場にある鉄板屋台にて、屋台の鉄板に火を点ける為、ガスの元栓を開け、次に鉄板の下にある3ヶ所の支栓を全て開けて点火しようとした時、チャッカマンがすぐに点かずその間にガスが出続け、鉄板下に充満しているところに点火した為、小さな爆発が起こった。</p>	23	11	140302	30～ 49
28	2016	7	14～ 15	<p>公道にて、2tダンプ車を運転中、赤信号で停車した際、密閉された車内にて同乗者と伴に冷却スプレーを使用した後、同乗者が煙草に点けようとしたライターの火にガスが引火して</p>	29	14	150103	10～ 29

				爆発し、熱傷した。				
29	2016	7	14～ 15	公道にて、2tダンプ車に同乗中、赤信号で停車した際、密閉された車内にて運転手と共に冷却スプレーを使用した後、自身が煙草に点けようとしたライターの火にガスが引火して爆発し、熱傷した。	53	14	150103	10～ 29
30	2016	7	8～9	炒め室で早朝釜の焼き入れ作業を行っている最中、ケーブルが燃えているのを発見した為、消火を行った。被災者が報告を受け確認の為、ケーブルを見たが、中の単線は断線等の影響は受けていなかった。次に動作確認を行ったが、不着火の異常警報が出た為、ガスの元バルブを開閉しながら確認作業を行った際、ガス漏れと思われる音がし、ガスバルブを閉めたが、何らかの原因で引火し、被災した。	38	16	10109	500～ 999
31	2016	6	5～6	工場内においてフォークリフトの燃料であるLPGガスボンベ交換作業中にホース装着ミスによりガス漏れが発生した。被災者は漏れを止めようとした際に、誤ってバルブを開方向へ回しガスを大量に右手に浴びて被災した。	32	11	10602	50～ 99
32	2016	4	19～ 20	豚肉店で調理中、携帯用ガスボンベのガスを抜く作業を行っていたところ、コンロの火が引火し、上半身が炎に包まれる状態となった。	50	11	140201	100～ 299
33	2016	3	16～ 17	厨房で炭に火をつけていた所、横の棚においてあったカセットコンロ用のガスボンベに気付かず、ガスボンベが熱せられて爆発した。	27	14	140201	1～9
34	2016	3	0～1	厨房以外の場所で、カセットコンロ用ガスボンベに穴をあけ、ガス抜きをしていた。その時に出る液体を缶に入れていて、厨房の流しに持って行き、液体を捨てようとした所、ガスが缶に留まっており、厨房のコンロの火にガスが引火し、燃えたと思われる。	58	11	140201	10～ 29

35	2016	2	17～ 18	店内、キッチンのガスオーブンに火を付けようとした際に、オーブンの中に必要以上のガスが充満していたようで、そこに着火したため、火が噴き出し顔・首・左手に火傷をおった。	26	13	140201	1～9
36	2016	1	19～ 20	店の厨房場所の中でうどん釜でご飯を炊いている時、バーナー式ガスボンベをその側に置いていた。釜の熱でガスボンベが加熱され、破裂して爆発。	33	14	140201	1～9
37	2016	1	8～9	工場で、ガスバーナーで焼き豆腐に焼き目を入れていた時、ガスの発生量を上げるため、ガスボンベを高温のお湯の中に長く置いたため、ガスボンベの中の圧力が上がり、安全弁が作動し、ガスが噴出しバーナーの火に引火し、首、右顔面を火傷した。	67	16	10109	50～ 99
38	2016	1	17～ 18	建屋内の地下水浄化施設メンテナンスの作業中、地下水を貯留する井戸原水槽内のメタンガス濃度を測定するために、水槽上部にある天板のマンホールを空け、水位を確認した際に、水槽内部より出火。両手および顔から頭部にかけて火傷を負う。	33	16	80209	1～9
39	2015	12	9～ 10	新築工事現場において基礎工事が終了し、木工事に取りかかる前、雨により濡れていた土間をLPガスのバーナーで乾かそうとした際、ボンベとバーナーをつなぐホースに微小の穴が開いており、炎が穴から漏れたガスに引火し、はめていたゴム手袋が燃え、顔も炎で火傷した。	66	16	30202	1～9
40	2015	10	13～ 14	ガスコンロで調理中、そばで依頼主が携帯用ガスボンベ処理の為に穴をあけ振ったところ、残っていたガスが噴出しガスコンロに引火、爆発し被災者が火傷した。	66	16	130201	30～ 49
41	2015	9	14～ 15	屋外ガスボンベ置場にて酸素ガスボンベのバルブ3箇所を開いた。最終バルブを開いた際、減圧弁と配管の接続部からガスが噴出、直後に熱風を受け、顔面、右腕に熱傷を負った。	58	11	120109	50～ 99

42	2015	9	15～ 16	小学校厨房で、委託業者による害虫等駆除作業が行われていたが、突然爆発が起こり、被災者は巻き込まれて負傷した。	44	14	120109	1～9
43	2015	6	4～5	調理場にてカセットボンベのガス抜き作業中にフライヤーの火が引火し、両腕全体と顔面の下の部分を火傷。	28	11	140201	1～9
44	2015	6	13～ 14	機器の溶接補修のために、溶接機用のアルゴンガスボンベを開栓したところ、減圧弁（鋳物製）蓋が破損して飛び出し、被災者前頭部に当たった。	56	4	30302	1～9
45	2015	6	15～ 16	工場作業場内の熱処理室で骨付ハムを直火スモークするため直火室のチップに火をつけようと携帯ガスバーナーを点火した状態で近づいた所、漏れ出していたプロパンガスに引火して両腕、顔にやけどを負った。	43	16	10101	30～ 49
46	2015	2	11～ 12	高速高架下にて塗装作業中に足場火災が発生、顔・両腕・右足に火が燃え移り火傷をおった。	21	16	30209	1～9
47	2015	2	15～ 16	ガスボンベを積んだトラックの後ろで、ガスがもれて充満しているのに気づかず、作業開始準備直後、何らかの火気が引火して爆発した。	46	14	30201	10～ 29
48	2015	1	20～ 21	厨房内でうどんだしを製造するため、ガスバーナーにチャッカマン使用し点火しようとした。チャッカマンが、なかなか点火せず、その間に開いていた導火線からガスが出ていたため点火した際、炎が噴きでて右手にあたった。	20	11	140201	10～ 29
49	2014	12	11～ 12	店内厨房においてガスコンロからトッペギ（土鍋）を石鍋つかみで掴んで、鍋敷きの上に置こうとした際、ガスコンロの火が着ていたポロシャツに燃え移り右側腹部を火傷した。	23	11	140201	10～ 29
50	2014	12	10～ 11	保育所内調理室において、回転釜の口火をつけるために、屈みながら点火棒を使用し点火したところ、漏れていたガスに引火し、生じた炎により、右手肘先と右顔面の火傷を負った。	51	16	130201	30～ 49



51	2014	11	8~9	花売場にある「焼きいも機」に点火しようと、2名（Aさん、Bさん）が機械の前へ行きたね火の元栓とコンロの元栓3つの内の左側の1つの元栓を開いた。点火器が近くになく、数mはなれたところにある点火器を取りにBさんが行き、被災者Aさんに渡した。Aさんが「焼きいも機」の前にしゃがんで火をつけたところ、たまっていたガスが爆発し、Aさん（被災者）はやけどをした。	56	11	80209	50~ 99
52	2014	11	15~ 16	ストーブがついている場所の近くで、作業衣に付着した油を引火性のスプレーで落とそうとしたところ、引火して燃え移り両足首を中心に火傷した。	35	14	30201	50~ 99
53	2014	10	10~ 11	店舗の厨房にて開店準備中にガスオーブンの栓が開いていて庫内にガスが滞留してコンロの火が引火破裂。その際の衝撃波が身体に当り被災。ガス栓が開いていた原因は不明だが、ガスオーブンの栓が機器の下部に設置してあり、ズボンのすそでひっかけて開栓する例があると消防の話だった。	43	15	140201	1~9
54	2014	10	19~ 20	エンジンが不調だった営業車を整備する為、エンジンをかけたままボンネットを開けてのぞきこむようにしてエンジン部分をパーツクリーナー（スプレー式）で洗浄していたところ、エンジンルーム内にたまったガスに引火して顔面及び左手甲に火傷を負った。	57	11	40201	100~ 299
55	2014	10	9~ 10	店舗バックにて肉鍋の点火の際に点火扉を開け、トレイで扇ぎガスを逃がした後スパークLで点火をしたところ、点火扉内に残っていたガスに引火し、顔全面と右腕肘下に火傷を負う。	41	16	140201	10~ 29
				工場内にあるカバー型バーナー式加熱炉の稼働中、午後1時ごろ炉のバーナーの燃料であるLPG供給用フレキシブル配管よりガス漏れしているのを発見したため稼働停止し、フレキシブル配管を交換し、午後2時40分ごろ交換部のガス漏				

56	2014	10	14～ 15	れ有無をリークチェックスプレーを用いて確認作業をしていたところ、設備上の不具合（バーナー側LPG配管の電磁弁全体の摩耗劣化）と確認作業の際のバルブ開閉手順の問題により（電磁弁前までの配管上のバルブを全て開いてしまった）炉内へLPGガスが流入し、高温のままであった炉内断熱災または、被処理物から発生する微量H2ガスの燃焼炎が着火源となり炉内LPG空気混合気が爆発し、炉内より噴出した高温ガスや断熱用耐火レンガにより作業を行っている3名の作業員が被災した。	43	14	11209	30～ 49
57	2014	9	12～ 13	コークス炉石炭塔の装置温度の上昇を検知し、現場点検者が、石炭塔ホッパー内からの白煙を確認した。内部を点検したところ、炎の発生は無く、煙のみの発生と確認した。石炭塔内に、煙が充満していた為、ホッパーへの直接散水は実施せず、発煙している石炭をホッパーから装入車へ払い出すことにした。その作業過程で、異常燃焼が発生した。この時、被災者は石炭塔ホッパーから装入車への切り出し状況を確認していて負傷した。	53	14	11001	1～9
58	2014	9	12～ 13	コークス炉石炭塔の装置温度の上昇を検知し、現場点検者が、石炭塔ホッパー内からの白煙を確認した。内部を点検したところ、炎の発生は無く、煙のみの発生と確認した。石炭塔内に、煙が充満していた為、ホッパーへの直接散水は実施せず、発煙している石炭をホッパーから装入車へ払い出すことにした。その作業過程で、異常燃焼が発生した。この時、被災者は石炭塔ホッパーから装入車への切り出し状況を確認していて負傷した。	52	14	11001	1～9
59	2014	9	8～9	リフトのガス交換作業の際にガスがもれ両手にかかり、左人差し指、右手手首に低温火傷を負った。	42	11	170209	300～ 499
				バイオマス再資源化施設にてガス化炉の運転をしていたがワ				

60	2014	8	13～ 14	ワイヤーのすべりが悪かったため、ガス化炉を停止し目視で火の気がないことを確認しワイヤーにWDスプレーをかけたところ引火し顔に火傷を負った。	32	16	150102	1～9
61	2014	8	21～ 22	ガス管の埋設工事で既設管から新設ガス管を分岐して敷設し管内にガスを通ずる作業を行っていた。新設管内にガスが充填されたことを確認するため、端末付近で採取したガスの点火試験を行ったところ、放散したガスに着火して被災した。	36	11	30199	1～9
62	2014	8	18～ 19	厨房内で牛肉を焼くために簡易製のガスコンロで鉄板をあたためる作業中に、突然ガスが破裂し引火した。	30	11	140201	1～9
63	2014	6	9～ 10	給湯設備修理中に、誤ってガス管に傷をつけガス漏れを発生させたが、換気不十分なまま作業を開始した為、爆発し、熱風により火傷した。	25	14	80204	1～9
64	2014	6	6～7	2ヵ所あるガスの元栓のうち1ヵ所の元栓が開いていて、ガスが漏れていたため爆発。その際爆風により左手首を火傷した。	39	14	11204	30～ 49
65	2014	5	10～ 11	ガス管切断工事の際、撤去中のガス管から掘削坑内に流入したガスに引火、顔や腕を火傷した。	30	11	30203	30～ 49
66	2014	5	11～ 12	ステンレス水タンク（1m×2m位）の水漏れ修理のため、タンク内で溶接箇所をパーツクリーナーで洗浄後、溶接の火をつけた瞬間、パーツクリーナーの可燃性ガスが残留していたと思われ、引火、小規模爆発し、顔と両手首を火傷、負傷した。	57	14	11209	10～ 29
67	2014	5	10～ 11	シュレッダーの刃に付いている紙を取り除こうとエアクリーナーを使って掃除し、シュレッダーの電源を付けて再開しようとしたところ、ガスが引火、シュレッダーから出火した。	27	16	80409	1～9
				構内40tクレーン軌道内に配置のクレーンのスパットの修理工事の為に第3岸壁に設置の溶接機から、アース線の延長				

68	2014	4	8～9	ケーブルを、溶接により取り付けようとしたところ、作業場近くにあった、酸素、アセチレンガス中間弁が入ったマンホール内に火花が入り内部に漏洩していた引火性ガスに着火、爆発し、負傷（大腿骨粉碎骨折）した。	68	14	11501	10000～
69	2014	3	11～12	漁協湾内に停泊している中古船を養殖用漁船に改造する為、2名が作業していた。船室床の油汚れをブレーキクリーナー（脱脂洗浄剤）で洗浄し、一時間程間をおいて、洗浄剤のガス臭がなかったため、餌の攪拌機を船室壁に設置する為のアンクルをアルゴンガス溶接する作業にとりかかった。その直後、船室に残っていたガスに引火して爆発し、火傷を負った。	45	11	11502	50～99
70	2014	3	17～18	飲食店で鉄板の火が消えていたため、顔を近づけて点火したところ、ガスが出たままで引火し、両手、顔を火傷した。	47	11	80209	1～9
71	2014	3	19～20	事業所内の男子個室トイレにおいて使用済みの消臭スプレーを産業廃棄物として出す前にスプレー缶内のガスを抜く作業を別の社員が行っていたところに被災者がトイレに入り、タバコを吸うためにライターに火をつけたところ爆発し頭、顔、手、手の甲、太腿を火傷した。	38	11	80409	30～49
72	2014	2	11～12	店舗にて料理の仕込み中、近くに置いてあった簡易カセットボンベのガスが過熱膨張、引火爆発し、火傷した。	33	16	140201	1～9
73	2014	1	3～4	会社が運営する店舗で、地下1階の従業員控室にて、使用済み消臭スプレー缶のガス抜き作業をしていたところ、誤って引火し、爆発火災が発生して火傷を負った。	24	14	140309	10～29
74	2014	1	12～13	調理場にて保温のために営業時間前にオーブンに着火、弱火にするが何らかの原因で火が消えガスが漏れた状態となる。オーブン内にガスが充満し、気付かず着火したところ引火し軽い爆発が起きた。その際作業をしていた従業員が顔や首に火傷を負った。	35	14	140201	10～29

75	2013	12	17～ 18	ゴミ焼却炉にて、プラントを動かす際に吸い上げる木屑等のごみを焼却しようと、新聞紙にライターで着火した際、作業服の袖に引火し、手に2度程度の火傷を負った。	46	11	10909	1～9
76	2013	10	5～6	ガス給湯器のガスをつける際、点火部分から漏れたガスに引火し、顔面、手に火傷を負った。	20	11	140101	100～ 299
77	2013	10	10～ 11	厨房にて、麺をゆがく鍋の下に設置してあるガスコンロに点火しようとした際、ガスのコックを先に開け、点火したところ、爆発し、顔、手甲、腕に火傷を負った。	24	11	80209	1～9
78	2013	9	11～ 12	2階バルコニーの防水作業中、濡れた下地を見つけたため、乾燥させようとバーナーで火を着けたところ、爆発して燃え、火傷を負った。	26	11	30209	1～9
79	2013	8	7～8	鉄を切るため、バーナー式の切断機に火をつけた際、バーナーの先端で不完全燃焼を起こし火が切断機内を逆流し、切断機本体とガスホースの接地面で爆発を起こし、太もも裏あたりに火傷を負った。	42	11	11209	1～9
80	2013	8	14～ 15	水中溶断機にて鋼管矢板に穴(直径10cm)を開ける作業を行っていた際、爆発が発生し、負傷した。	50	14	30111	30～ 49
81	2013	7	8～9	物を熱湯消毒する際、湯を沸かす為の釜のガスバーナーが不完全燃焼を起こし、それが原因で、一酸化炭素が発生し、工場内で作業していた2名が一酸化炭素中毒により救急搬送された(原因はガスバーナーの不完全燃焼と、換気扇のフィルターの目詰まり)。	37	12	10102	10～ 29
82	2013	7	23～ 24	店舗内厨房にて、点検作業中、ガス管が劣化していた為、ガスが漏れ、引火し、腕に火傷を負った。	23	11	140201	50～ 99
83	2013	6	11～ 12	ドラム缶でゴミを燃やし始めたところ、舞い上がった火の粉が軽油の付着していた作業着に燃え移り、顔面、両手、太腿に火傷を負った。	21	11	70101	10～ 29

84	2013	6	11～ 12	プレス機の解体撤去作業中、プロパンガスの栓を閉め忘れた為、接断器から出る火花が酸素ガスにより燃え上がり、被災者ら3名が背中、顔、手等に火傷を負った。	45	16	11209	10～ 29
85	2013	3	9～ 10	調理室にて回転釜に火を付けた際、手順を誤り、流出したガスに引火し、火傷した。	70	11	130201	10～ 29
86	2013	3	15～ 16	アドバルーン作業中、強風のため係留をする際、アドバルーンが破損。何らかの原因で漏洩していた水素ガスに引火し、アドバルーンが破裂し、顔と手に火傷を負った。	68	11	90209	1～9
87	2013	3	11～ 12	店内にて、空のガスボンベに穴を開ける作業中、誤ってガスの入ったボンベに穴を開け、近くにあったカセットコンロに引火し、手と顔に火傷を負った。	58	11	140201	30～ 49
88	2013	2	11～ 12	プロパンガスの付け替え作業中、交換時接触の不具合によりガス漏れが発生、ガス漏れを直そうとした際、ガスボンベ栓を閉めずに作業を行ったためステーション周辺にガスが充満し、点火していた固形燃料に引火。炎が上がり、顔、首、両手を火傷した。	45	16	140101	100～ 299
89	2013	2	9～ 10	レストラン店舗内にて、厨房コンロのバーナーが破損し、外されていたことを知らされていなかった為、コンロに着火した際、充満していたガスに引火し、爆発。顔、首、腕に火傷を負った。	18	11	140201	10～ 29
90	2013	1	8～9	お茶乾燥機に点火し、他の仕事の準備をしていた際、火が消えていた為、再度点火したところ、濡れていたガスに引火した。	34	16	10109	10～ 29
91	2012	11	13～ 14	昇降機に溶接を使い修理していたところ爆発が起こり、搬入計量棟1階で計量器を確認していた被災者が顔、手を火傷した。	46	14	10109	10～ 29
				自動車の整備終了後、作業服の袖口の汚れをスプレー式パー				

92	2012	11	16～ 17	ツクリナーにて落した後、休憩室で煙草を吸う為、ライターを使ったところ、作業服の袖、若しくは軍手の中に滞留していた、パーツクリーナーのガスに引火し、両手に火傷を負った。	35	11	11701	10～ 29
93	2012	11	15～ 16	タンク開放検査中、タンク上部のバルブ撤去作業の際、周囲に滞留していたガスが、他作業者が使っていた電動工具の火花によって、引火した為、付近にあった可燃物への延焼を防ごうと思い、鎮火作業をしていた所、火傷を負った。	38	16	30302	10～ 29
94	2012	11	15～ 16	タンク開放検査中、タンク上部バルブ撤去作業の際、滞留していたガスに、他作業員が使用していた電動工具の火花が引火した。	36	16	30302	10～ 29
95	2012	11	15～ 16	開放検査の為、マンホールボルトを外そうと電動工具を使用した際、滞留していた混合ガスに引火し、火災になった。	57	16	30302	10～ 29
96	2012	10	8～9	工場内で溶接作業の際、横に置いてあったガス切断器からアセチレンガスが漏れており、引火し顔に火傷を負った。	65	11	11209	1～9
97	2012	10	11～ 12	うどんの試食の準備をするために、うどんをゆでるために釜に湯を入れ、火をつけようとした際、ガスを開ける順番を間違え、ボンと爆発する様な音を立て、手の甲と腕の内側に火傷を負った。	20	11	10109	30～ 49
98	2012	9	5～6	厨房にて、釜の点火を行った際、ガスのメインバーナーを開栓していた為、ガスが充満し着火マンで点火したところ、ガスに引火し爆発。手と首を火傷した。	43	14	140201	10～ 29
99	2012	9	1～2	調理場にて、カセットボンベが破裂し、破片が腕に直撃し裂傷した。	22	15	140201	10～ 29
100	2012	9	16～ 17	店の厨房にて、炊飯器の点火状態の確認の為、覗きこんだところ、点火し負傷した。	21	14	140101	10～ 29

出典：[https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen\\_pgm/SHISYO\\_FND.html](https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.html)(職場のあんぜんサイト)

参考：[労働災害の分類の概要](#)

[各起因物における死傷災害100事例 \(-2017年\)](#)に戻る。